

平成27年度授業づくり拠点校 実践事例

調査研究名	生徒の活用力を高めるための授業改善
研究主題	わかる・できる・楽しい授業の実践 ～特別支援教育の視点を踏まえた授業づくり～

1 本校の実態

昨年度は、「分かる・できる・楽しい授業の実践～毎時間の授業評価を活用した授業改善を通して」を研究主題に、授業づくり拠点校として、生徒の活用力を高めるための授業改善に取り組んだ。その中で、読解力・表現力を高めるための「萩東中タイム」では十分に力を高めていけない生徒や、通常の授業において様々な配慮を必要とする生徒が多いことが改善点として挙げられた。そこで、本年度は、副題を「特別支援教育の視点を踏まえた授業づくり」とし、よりきめ細やかな対応を進めることとした。

国語科においては、「根拠を明確にして自分の考えを書くこと」「複数の資料から適切な資料を得て、自分の考えを具体的に書くこと」等、条件に従って書くことについて、昨年度に引き続いて課題がみられる。

2 研究主題達成のための取組

- (1) 「特別支援教育の視点」による授業改善
- (2) 「萩東中スタンダード」による授業展開と「毎時間の授業評価」の改善と有効活用
- (3) 「人材育成ユニット研修」(6グループ)による授業改善
- (4) 「土曜塾」「火曜塾」による補充学習の機会の設定

授業の工夫や個別の支援に加えて、土曜日早朝、火曜日放課後に個別指導の機会を設定し、基礎・基本の充実を図る。

3 公開授業(平成27年11月18日)

(1) 学習指導案

第1学年 国語科学習指導案

授業者 教頭 内田京子

1 単元名 「つながりを読む」

教材名 「シカの「落ち穂拾い」－フィールドノートの記録から」

辻 大和(光村図書)

2 単元構成の意図

(1) 生徒は、図表を読み取ったり、それを文章化したりすることを苦手とするものが多い。

中学校学習指導要領第1学年の「読むこと」の指導事項には「カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること」とあり、言語活動例として「イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと」が示されている。

また、「書くこと」の指導事項には「ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」、言語活動例には「イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと」とあり、図表の関連を意識した読み取りや、文章の記述の力が求められている。

しかし、全国学力・学習状況調査をはじめ、多くの場面で、図表を読み取り、条件を与えられた中でそれを用いて文章化することを苦手とする生徒が多い。理科や社会科等においても、資料として図表に触れることはあるものの、それらから読み取れることを文章化・推敲する機会は意外と少ない。国語科においても、説明的文章で図表を伴うことは多いものの、本文に書かれている文章自体は読み取れるが、図表を見て「確かにそうだ。」と確認するに止まることは多い。生徒は、図表の読み取りや文章表現を苦手としながらも、それを学ぶ機会が十分ではないと言える。

(2) 図表が多く取り上げられ、筆者の意図を伝えるために大きな働きを担っている記録文である。

1 学期に学習した説明的文章「ダイコンは大きな根？」では「段落の役割」に、「ちよっと立ち止まって」では「段落と段落の関係」に着目して文章を読み取った。

2 学期に配置された本教材では、3つの図と2つの表、4つの地図や写真が添えられ、図表の役割に注意しながら、事実とそれに基づく筆者の考えを読み分けることを目標としている。図表が、筆者が伝える事実の根拠として大きな役割を担っている記録文である。

また、比較的平易な文章表現であり、記録文ならではの、「観察のきっかけ」「観察から分かったこと」「仮説」「仮説の検証」「考察」という明快な文章展開となっている。図表と合わせて身に付けさせたい叙述の仕方である。

(3) 図表を生徒自ら読み取ることを通して、筆者の伝える事実と考えを読み分ける力を育てたい。

生徒が今後生活する中では、多くの資料や図表を読みこなして対応する場面がある。学習においては、国語科のみならず、多くの教科で図表を読み取り、あるいは図表を用いて説明する場面もある。発展教材として、与えられた図表から読み取れる事実と、それに対する自分の考えを書かせることは考えられる。しかし、学習活動において書かせっ放しになること、作文の評価が曖昧になることは避けたい。

そこで、教科書本文の図表を生徒自らに読み取らせ、記述させる活動を通して、筆者の叙述と照らし合わせて確かな読みにつなげたい。本学級の授業担当者が通常行っている「単語で終わらず、根拠を挙げて説明させる」指導、字数制限や時間制限を設定しての作文活動等を生かしつつ、図表と文章とをつなぐ読みとさせていきたい。そして、全ての教科における図表との関わりの基礎として、国語科で身に付けさせたい言語能力の練習の場としたいと考えている。

3 単元目標

図表の読み取りを通して、記録文における事実とそれにもとづく筆者の考えを読み分ける。

4 指導計画（全3時間）

- 第一次 筆者の「観察のきっかけ」について、図表を除いた文章を読み取り、資料や写真の効果を確認する。（1時間）
- 第二次 図表の読み取りを通して、観察結果から「仮説の検証」に至る内容の事実と筆者の考えを読み分ける。（1時間）【本時】
- 第三次 生徒自ら「考察」を予想した後、筆者の考察の内容をとらえ、記録の文章の特徴をとらえる。（1時間）

5 本時案

(1) 主眼 2つのグラフから得た情報と文章を関連させて、事実と筆者の考えを読み取る。

(2) 準備 ワークシート、ホワイトボード、プロジェクター

(3) 学習の展開

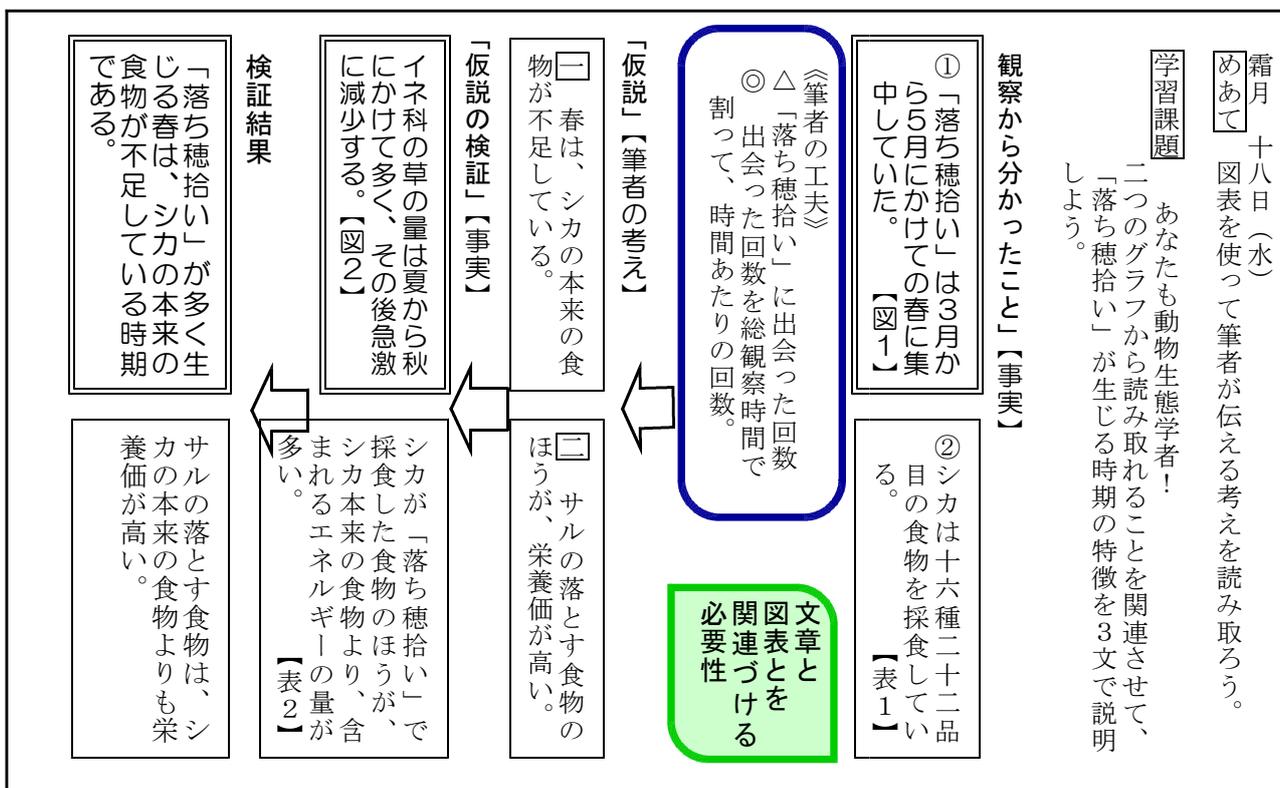
学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応及びつまずき	教師の手立て
① 各教科の授業で、グラフを取り扱った場面を思い起こす。 【全体（3分）】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のグラフ ・ 社会の円グラフ ・ 理科の折れ線グラフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科でグラフを取り扱うことへの意識付けとするよう、できるだけ多く発言させる。
<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> めあて 図表を使って筆者が伝える考えを読み取ろう。 </div>		
<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習課題 ① あなたも動物生態学者！ 2つのグラフから読み取れることを関連させて、「落ち穂拾い」が生じる時期の特徴を3文で説明しよう。 </div>		
② 「図1 落ち穂拾いに出会う割合の変化」と、「図2 イネの供給量の変化」の2つのグラフを関連させて分かることを、文章にまとめる。 【一人学び（5分）】 ・ 2つのグラフだけが記されたワークシートを用いて、本文の記述の受け売りではなく、自身がグラフと向き合う場	<ul style="list-style-type: none"> △ 文章に書かれたことは納得できるが、自分でグラフを読み取れることを敬遠する。 △ グラフの縦軸と横軸の関係が理解できていない。 △ 図1から4月の数値が高いこと、図2から4月までの数値は低く、その後増えることは分かるが、関連付けることができない。 ・ 図1と図2との山の位置のずれに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はじめから机をグループの形にして、必要があれば友だちに聞いてもよいとする。 ・ 横軸はともに月を表していることを押さえ、グラフの形に着目させる。 ・ 関連が難しい場合は、個別のグラフの読み取りだけでも説明させ、無解答にさせない。 ・ どこに留意して考えたか、生徒に説明させてヒントとする。
③ 友だちと記述の視点、記述の仕方を確認し合う。 【グループ（7分）】	<ul style="list-style-type: none"> △ ホワイトボードに、各図の特徴は書いても、関連が書けない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数班の説明をもとに、生徒の言葉の補い合いを重視する。

<p>④ グラフから読み取ったことをホワイトボードで説明して、全体で共有する。 【全体（10分）】</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクターでグラフを投影し、どの部分を指すのかが分かるようにする。
<p>学習課題 ② 筆者は、何のためにこの2つのグラフを提示したのだろうか。</p>		
<p>⑤ 「観察から分かったこと～仮説の検証」の本文を読み、筆者の思考の過程を確認する。 【ペア読み（4分）】 【グループ（10分）】</p>	<p>△ 2つのグラフの説明の部分を探ることができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図1は「観察から分かったこと」の根拠とするため。 ・ 図2は「仮説の検証」の事実を示すため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文中の「図1」等の表記を外しているため、それぞれのグラフを1文で探すよう指示する。 ・ 記録文としての小見出しにも着目させる。
<p>⑥ 「表1」「表2」について、どのように説明されているか確かめる。【全体（5分）】</p>	<p>△ 表1の「種」「品目」の数え方で悩む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果の事実が、どこに、どのように書かれているかに着目させる。
<p>⑦ 授業評価の記入をする。 【個別（3分）】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でグラフの読み取りができるようになりたいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由記述欄には、図表の効果を書かせる。

(4) 評価

- ・ 2つのグラフから読み取れることを、関連させて書くことができたか。

6 板書計画



(2) 研究協議における活用力を高めるための視点・提案

生徒の活用する力を高めるために必要だと思われる点について、授業を通して次のようなことが挙げられた。

- ・ 授業者の笑顔による安心感、グループ活動の取りかかりの素早さ、落ち着きと学ぶ雰囲気高めるための学習規律。
- ・ 生徒が本文を正確に読み取るために十分な読みの時間の確保。自分の経験によらず、筆者の書きぶりから考える姿勢。
- ・ 「1文で」「3文で」等、生徒が真剣に、意欲的に取り組みやすい分かりやすい指示、言葉が足りないところは、言葉を補足させ改善を促す姿勢。
- ・ 細部まで行き届いたワークシート。図表の掲載では明瞭さを大切に。
- ・ 生徒の意見を関連させて価値付けるために十分な時間の確保。
- ・ 図表を重ねて気付かせるための ICT の活用。

(3) 指導助言の内容

- ・ 国語科の意義を問う先進的な取組である。これまでも図表はよく出てきていたが、グラフと文の比較に終わっていた。子どもたちが「図表」と、筆者の「仮説→検証」の流れとつなげる読みが大切である。
- ・ 近年、「図表のまじった教材」が増えた。PISA 型読解力では、これまでの日本の「詳細な読み」だけではなく、「データから読み取ったことを、インプットし、考え、アウトプットすること」が求められている。本時は複合型テキストである。詳細な読みだけでは生きてゆく力は身に付かないので、アクティブ・ラーニングが求められている。
- ・ 理科的な教材では、細部を読むことを目的とするのではなく、国語科たる立場で読むこと。効果的なグラフの使い方から、目的や意図をもたせて、基礎的な力を使って書かせてみるのが活用力である。他教科との関連の場もあるので、言語活動は、全教科で、学校全体で取り組むことが重要である。
- ・ 生徒の「わくわく感」から「よく分かった」につながる授業が大切である。そのためにも、めあての質の向上が求められる。
- ・ 「～できるようになる。」(学力)、「～しよう。」(活動)、「なぜ～だろうか。」(課題)等、どんな力を付けたいかを明確にすることが重要である。

4 取組の成果

(1) 主体的に図表を読む力の向上

国語科はもとより、理科、社会でも同様に図表を読む機会があるが、1年生の段階で基本的に取り上げたことにより、生徒の主体的な読みが始まった。文章の補足としてだけの視点ではなく、図表そのものから多くのことを考え出せる点に生徒の関心は高まっている。これを読む力として向上・定着させるのが現在の課題である。

(2) 教科を超えて、図表を丁寧に取り扱う学習の広がり

様々な調査・テストにおいて、資料や図表から読み取ったり、関連付けて文章化することにまだ十分習得していない生徒たちではあるが、他教科でも、授業時間中に、

図表を読み取り、文章化する時間を確保する動きが出てきた。定期テスト等での記述問題の工夫にもつながっている。

事前の授業研究でも、国語科に限らず、他教科の教職員の参加があり、教科ごとの視点での気付きもあった。学校全体で取り上げる姿勢となっている。

5 今後の取組

10月の学力定着状況確認問題の分析により、本校では、「読解力」と「記述する力」に課題があった。今後はそれぞれの力の育成のために、全校で次の取組を進めている。

(1) 「書く力」の育成のための取組

① 話し合い活動の改善

明確な課題の提示、生徒が思考する時間の確保、授業者の「待つ」姿勢の重視

② 書く時間の充実

形式の提示、根拠のある記述

③ 「まとめ」の場面の改善

本時に学んだことを生徒が文章化する時間の確保

(例) いくつかのキーワードを与え、本時に学んだことを文章として書く。

本時に学んだ文法を使って、自分で考えた英文を書く。

(2) 「読解力」育成のための取組

① 言葉にこだわる授業づくり

(例) 根拠となる言葉や大事な箇所に線を引かせる。

「問われていることは何なのか」を問う。

② 読み取りに必要な言語・知識をインプットする。

(3) 日常的な取組

① 朝学習の時間に視写を取り入れる。

新聞4社のコラム等を視写し、論理的な文章に慣れさせる。

② 終会の工夫

30秒スピーチや新聞記事紹介の充実、グループ活動の活用

③ 家庭学習の工夫

学年・学級独自の取組、生徒会活動等とのリンク

コミュニティ・スクールを中心とした「土曜塾」「補充学習」の学習指導、また「面接指導」等のキャリア教育指導とも関連させて、生徒たちの活用力（読解力・表現力等）の充実に、学校を挙げて取り組んでいきたい。